

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101513		
法人名	社会福祉法人 真和会		
事業所名	グループホーム おおくさ		
所在地	長崎県諫早市多良見町元釜555番地		
自己評価作成日	令和3年2月27日	評価結果市町村受理日	令和3年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者個々の生活ペースを大事にしている。第2の家と思って頂けるよう家庭的で温かみのある寛ぎの場を目指しており、施設内には四季のうつろいに合わせ、生け花や壁面等の飾りを施して和みの空間を作っている。現在はクラスター発生後で、施設内での食事作りは行っていないが、毎日の食事やおやつは手作りを基本として、旬の食材を取り入れ、食の楽しみに繋がるよう工夫をしている。行事の際には手作りの箸袋やランチョンマットを都度に準備し、敬老の日のオリジナルのアルバムプレゼント等、利用者や御家族にも喜んで頂いている。また、利用者個々のレベルに応じた学習療法や役割活動を行い、個別のケアに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは自然豊かな眺望の良い場所に位置している。母体が社会福祉法人であり、併設の特別養護老人ホームとは身体拘束廃止対策委員会や感染症予防蔓延対策委員会等の委員会を通じた研修や行事、避難訓練へ参加することで、情報を共有するなど協力体制が整っている。ホームは入居者一人ひとりのペースを大事にしており、自宅の延長として「その人らしく」過ごせるよう支援している。「その人らしく」は職員の中にも浸透しており、職員同士で入居者について話し合う機会も多くある。食事やおやつは手作りを基本としており、食事作りの作業の一部は入居者も一緒に行うことにより食の楽しみに繋がっている。現在は新型コロナウイルス感染症クラスター発生後で調理は業者に依頼しているが、4月からはホームの手作りの食事を再開する予定である。また、状況を見ながら地域との交流や外出支援を再開していく意向である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームおおくさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りの際理念を唱和し、意識付けを行っている。職員間で共有し、理念に沿った支援を心掛けている。	「当たり前に自分らしく生きる」を基に作られた理念を掲げ唱和することで職員間での共有を図っている。職員の担当制による入居者支援を行っており、月に1回のミーティング時に理念に沿ったサービスが提供できているかを振り返る機会がある。また、職員は日常的に休憩時間等を利用して「その人らしさ」について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事の中で地域の方々に参加して頂く事がある。餅つきの行事の際は、地域の方々と一緒に作業をして頂き、交流の機会となっている。現在は感染症予防の為交流は控えている。	管理者は地域民生委員や地域に居住している職員を通して情報を集め、声かけをしてもらうよう依頼したり、同法人の併設施設で行われる行事に参加し地域の人々とのふれあいを大事にするよう努めている。また、町内の「いきいきサロン」に入居者と一緒に出かけ交流を図る等積極的に取り組んでいる。現在は交流を控えているが新型コロナウイルス感染症終息後は再開する意向にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での実践内容を踏まえ、民生委員等地域の方々からの認知症の相談に応じ、助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、市の担当者や地域包括センター、地域の方々等に参加して頂いている。事業所からの経過報告や検討事案についての相談を行い、助言や意見を頂き、常にサービス向上に努めている。令和2年3月より感染症予防の為書面にて開催中。文書にて意見を頂いている。	2ヶ月に1回開催される運営推進会議は民生委員・市の担当職員・地域包括支援センター・駐在所・さわやか相談員・管理者で構成されており、現在は書面での開催となっているが、入居者の状況や支援の取り組み状況を詳しく報告している。返信されてきた意見や質問についても丁寧に対応し、助言に沿って取り組む等サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に報告、相談を行い、助言を頂いたり連携を図るよう努めている。	市の担当者が運営推進会議のメンバーであり、常々入居者やホームの実情及び取り組みについて透明性をもって報告することで相談しやすい関係を築き、問題が発生した時に速やかに解決できるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の同一法人内の身体拘束廃止対策委員会への参加や、法人内の研修、毎月のミーティング内でも議題に取り上げ、理解を深めている。また、利用者お一人お一人の認知症による危険行動とそのリスクを考え、安全に生活出来る様利用者に応じた対応を行っている。	同法人内に身体拘束廃止対策委員会を設置しホームから参加する職員を決め一年間担当する。その際の資料を基に月1回ホーム内で研修を行い、認知症についての理解と専門的なケアを学び、職員それぞれの支援方法の振り返りの機会に繋げている。また、スピーチロックをしないための声かけ等を具体的に示し、職員の対応力の向上に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング時や、同一法人内の虐待防止委員会、法人内の研修に参加し、虐待について学んでいる。日々のケアを振り返り、虐待防止の徹底を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現段階では制度を必要とする利用者はいないが、対応が必要となった場合に備えて、制度について学ぶ機会を作り、全職員の周知を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や御家族の疑問点や不安に思う点については、丁寧な説明を心掛け、十分に話し合う事で理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置しているが、殆ど投稿されていない為、面会時や定期的な連絡の際に、会話の中で意見を出して頂けるようにしている。	家族からの意見や要望は申し送りノートに記載し全職員が共有している。対処できることは速やかに実行し家族の安心に繋がっている。現在オンライン面会等も考えているが家族も高齢で難しいため実現に至っていない。	コロナ禍で面会が制限された中、家族からの意見や要望を聞き出すのは困難であることが窺えた。請求書送付の際に入居者の写真や便り等の他に運営推進会議の議事録を送付する等、ホームの実情や取り組みについて具体的に知ってもらい話題を広げる手段として利用する等、今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで、業務や改善点についての意見を聞く機会を設けている。	職員はそれぞれ、廊下掲示係・献立係・レクリエーション係等を受け持ち毎月のミーティングで意見を述べる機会も多い。クラスター発生後は環境整備に力を入れており、物品類について職員の提案を取り上げ改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員不足により、各職員が疲労や負担を感じているが、現状では日々の業務にあたるのが手いっぱい、人的環境が整備出来ていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月のミーティングや法人内の研修を通して、認知症ケアや介護に必要な医療面での知識、技術の向上に努めている。また、外部の研修会に参加し、研修内容を報告する事で、学びの機会を作っていたが、現在は感染症対策の為、外部研修には参加出来ていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は諫早市のグループホーム連絡協議会の研修に参加し、交流を図っていたが、現在は研修に参加出来ておらず、交流を図る事が出来ていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報を元に、本人の話を傾聴し、思いを受け止め安心して共同生活を送る事が出来る様、努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に、利用に関する不安や要望等、十分に話を聞く様にしている。また、入所後も面会時には現状報告を行い、情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族の意向をしっかりと把握し、ニーズを見極め、適切な対応が出来る様努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯物たたみ等、出来る事を手伝って頂いたり、生活中で馴染んできた事や得意な事を職員と共にしながら、職員が学ぶ事も多く、支え合いながら暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて本人の近況を報告し、体調変化や課題等があれば相談し、共に本人を支えていく関係作りに努めている。また、誕生日会の際にはお知らせを行い、利用者と御家族と一緒に過ごす時間がもてるよう努めている。現在は感染症対策の為面会が中止になっており、電話にて随時近況報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人や知人がホームに尋ねてくる事があり、居室に飲み物を提供し、ゆっくりと過ごして頂ける様務めている。現在は感染症対策の為、面会は中止している。	職員は「面会簿」を利用して入居者にとっての馴染みの方を把握しており、入居者との会話の中で面会者との関わりを知ることも多い。また、年賀状を書く時や携帯電話の充電に気をつける等関係継続に向けた支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃からの利用者同士の関係に配慮し、活動時に交流を持ったり、お一人お一人が孤立しないよう、職員が間に入って支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もその後の受け入れ先の相談や、必要時の相談や支援に努めている。また、必要に応じて引き継いだ事業所との連携を図るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で表情や仕草から思いをくみ取り、職員間で話し合い、思いに沿った生活の実現に努めている。意思疎通困難な方は、ご家族からも情報を得て、思いに沿ったケアが出来るよう努めている。	入居者本人に意見を聞くことはもとより、レクリエーション等の活動を通して得た気づきを見逃さないよう努めている。意向の把握が困難であったり、不確かな場合は職員間で話し合うことが日常的に行われている。また、ヒヤリハットについては「一日一点以上あげる」を決めており意識付けに繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に御家族、本人からこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を尋ねたり、また日々の関わりの中での情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や水分量、排泄のチェックを行い、ケース記録に日々の様子を記録している。お一人お一人の心身の状態に合わせた活動を提供し、充実した生活を送って頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族や本人の意向、要望を聞き、ケースカンファレンスを定期、随時で行っている。また、毎月のミーティング時にもケアカンファレンスを行い、職員間で気づいた事を検討し、意見を反映してより良いケアを提供出来るよう努めている。	入居者本人や家族の意向・要望を聞き、職員間で気づきや意見を出し合い担当職員が原案を作り、ケアマネージャーが介護計画を作成している。介護計画目標を日々の支援に活かすため「活動参加チェック表」を利用して確実にサービスが提供できているか確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、またプランの実施記録をケース記録に記入している。その際、本人の言葉や思いをありのまま書くようにしている。また、必要な部分は連絡ノートや口頭での申し送りにて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出や買い物代行、衣類の補充等、希望を聞きながらその時々ニーズに応える事が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張美容室の利用や地域のいきいきサロン、また希望者は図書館も利用し、地域資源を利用しながら、地域の方々との交流を図り、豊かな暮らしを送って頂ける様、支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に月に1回往診に来て頂き、状態報告を行っている。異変時には都度電話連絡を行い、指示を仰いでいる。受診状況は個別の健康管理シートに記入し、情報共有を行い、健康管理に努めている。また、受診について必要に応じ御家族とも相談し、支援方法を決めている。	月に1回かかりつけ医の訪問診療がある。かかりつけ医は24時間対応となっており、入居者本人及び家族の安心に繋がっている。歯科は基本3ヶ月に1回の訪問診療であるが状況次第で月に1回行われている。皮膚科は現在患部の写真を送り指示を仰いでいる。希望のかかりつけ医や他科受診については家族と相談の上、支援方法を決めている。受診後は看護師職員が電話にて家族へ報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックや日常生活の中で気づいた事や状態変化があった際は、随時看護師に相談し、適切な処置や受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはサマリーを提供し情報共有を行い、環境の変化に不安なく安心して治療が受けられるよう、支援している。また、職員がお見舞いに行き、馴染みの顔を見せる事で、利用者のストレスの軽減が図れるようにしている。入院中も医療機関、御家族と情報を共有し、退院を含めた今後の方向性について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームで出来る範囲について説明を行い、本人、御家族の意向を踏まえながら、その範囲の中で医療機関と連携を図りながら、出来る限りの対応を行っている。また、同一法人内の事業所とも情報を共有し、連携を図っている。	入居時にホームの考え方やできることを説明し、段階ごとに本人・家族・かかりつけ医・ケア関係者と意向を確認しながら対応方針を共有している。また、同法人の特別養護老人ホームとも連携を図り、本人・家族に寄り添いサポートするよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、周知徹底を行うと共に、勉強会を定期的に行い、急変時や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の避難訓練を行い(夜間想定含む)、うち1回は消防署立会いの下訓練を行い、指導を受けている。同一法人内の避難訓練にも参加し、基本的対応、避難方法等の確認を行っている。	防火管理体制・自己防衛組織を編成しており、目に付く場所に掲示し意識付けを図っている。避難訓練は日中・夜間を想定し年2回実施している。うち1回は消防署立会いで実施し、その都度指導を受けている。避難訓練には同法人の併設施設からの応援者や地元の消防団の参加があり、協力体制を構築している。	消防避難訓練は全職員と入居者が参加し実施している。平成30年度は自然災害訓練を実施しているが、直近での自然災害に対する避難訓練は未実施である。自然災害を想定し、まずは通常の避難訓練に加え、慌てず確実な避難誘導ができるような今後の取り組みに期待したい。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、一人一人を尊重した言葉遣いや接遇マナーを心掛けている。排泄、入浴、会話等を行う際にも、プライバシーに配慮するよう対応を徹底している。	同法人内の年間研修計画の中に接遇マナー研修を組み込んでいる。トイレ誘導の際はまわりに気づかれないように配慮した言葉かけを行っており、会話の中での言葉使いや方言にも気を配り、職員同士が注意しあえる関係性を築いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、本人が思いや希望を伝える事が出来るよう、利用者の目線に立った声掛けを心掛け、自己決定ができるよう、努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の体調やペースを把握し、その方のペースに合わせた生活を送って頂けるようにしている。活動参加は本人の意思を尊重しながら声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧をされている方は、必要時代理で購入をしている。また、定期的に身だしなみを整えられるよう、地域の美容室にお願いで、月1回来荘して頂いている。入浴時や行事の際は一緒に洋服を選んで頂いたり、行事に合わせてお化粧もして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備や料理の盛り付け、お盆拭き等、個々の能力に応じて手伝って頂き、コミュニケーションの機会にもなっている。また、旬の食材を取り入れる事で季節を感じて頂いたり、本人の誕生日の際は、お好きなメニューを提供し食事が楽しめるよう支援している。	食事・おやつは手作りを基本としている。根菜の皮むき・ゆで卵の殻むき・インゲンのすじ取り等の下準備や盛り付け等を入居者に手伝ってもらい、一緒に作業することで食事が楽しいものになるよう支援している。誕生日には本人のリクエストに応え提供し喜ばれている。職員は残食の内容から好みや量等を考察し、味付けを変える等工夫している。現在は業者に依頼しているが、4月からは「手作り」を再開する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は毎食記録し、ケアプランに沿って水分量のチェックも行っている。食事形態や量、塩分摂取量等、個別に支援し、食事が少ない方は必要に応じて補食や嗜好品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、週2回は義歯洗浄剤を使用し洗浄を行っている。定期的な歯科往診があり、また必要時にも都度往診に来て頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、必要な方は、定時で声掛けや誘導を行っている。夜間はトイレまでの誘導が難しい方はポータブルトイレを使用し、出来る限りトイレでの排泄を促している。	可能な限りトイレでの排泄を支援するために排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握している。また、朝食にバナナ・ヨーグルト・牛乳を提供したり、おやつに寒天やサツマイモを利用する等自然排便を促すよう献立にも工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には、朝食時に乳酸飲料を提供し、また未排便が続いた際には、昼食時にも提供している。水分量にも注意し、少ない方には好みの飲料を提供したり、個別に対応している。毎日体操や歩行等、軽い運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調を考慮しながら、出来るだけ本人の意思を尊重し、入る時間帯についても希望に沿えるようにしている。希望する方には出来るだけ毎日入浴して頂けるよう、対応している。	午前と午後は浴槽の湯を入れ替え、できる限り一人ひとりの生活習慣や意向に沿った支援を行っている。毎日の入浴も可能であり、ゆず湯や菖蒲湯等くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。また、皮膚疾患のある入居者には順番を最後にしてもらい洗濯物も別に洗うなど配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動参加や、適度に身体を動かす機会を作り、夜間の安眠に繋げている。音や照明にも気を配り、眠れない時には、居間でホットミルクを提供する等、安心して休む事が出来るよう支援している。また、夜間の睡眠状態や体調に応じて、日中臥床時間を取り入れ、身体を休ませて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	最新の処方箋をファイルに準備し、お一人お一人の服用中の薬の作用、副作用等、内容の把握に努めている。与薬前の準備の際には、薬の個数や日付を職員2人で復唱し、与薬直前にも同様に確認している。また、薬変更時には口答及び連絡ノートを用いて全員把握出来るようにし、状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の生活歴や趣味嗜好を情報収集し、洗濯物干しや洗濯物たたみ、野菜の皮むき等、個々の力に応じた家事活動、役割活動を提供している。また外気浴や散歩にて随時気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調や希望に合わせて、外気浴や散歩等、外の空気に触れる機会を作っている。また、近所のコンビニまで嗜好品の買い物と一緒に出掛けている。現在は感染症対策の為、外出は中止している。	コロナ禍以前は、入居者の希望に沿って散歩や近所のコンビニエンスストアへ買い物に出かける等、日常的に行われていた。また、ドライブや馴染みのレストランでの外食支援も行ってた。理美容に関しては現在近所の理美容院から訪問してもらっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で財布を持たれている方もおり、買い物代行時には、本人のおこずかいから支払いをされる方がいる。また、現金出納帳にて金銭管理を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には必要に応じて電話で話せるよう、支援を行っている。携帯電話を所持されている利用者もあり、着信履歴がないか確認も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要に応じて随時温度、湿度調整を行い、快適に過ごして頂けるよう努めている。また、今や廊下に季節ごとの飾りつけを行い、利用者が季節を感じつつ、目で見ても楽しめるようにしている。	廊下には新年祝賀会時の写真や誕生日のメニューの写真などを掲示し、見て楽しめるよう努めている。定期的に温度・湿度調整、換気を行い居心地よく過ごせるよう配慮している。居間からは敷地内の満開の桜を眺めることができ、入居者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性に配慮し、席を配置している。またソファ席も用意し、お好きな時に利用し、リラックス出来るようにしている。居間以外にもテーブル席やソファを用意し、日向ぼっこをしたり外を眺めたりと、思い思いの時間を過ごせるよう努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は神棚や本人の馴染みの家具、写真立てや小物類もお好みに飾って頂き、また配置も安全面を考慮しながら、居心地よく過ごして頂けるよう努めている。	居室にはタンス・神棚・写真立て・鏡台等入居者一人ひとりの馴染みの物を持ち込み、動線や安全性を考慮した配置で整理している。掃除や衣替えができる入居者は担当職員と一緒に、その人らしく暮らせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、必要に応じて手摺等を随所に設置し、また居室やトイレには表札をつけ、安全面に配慮しながら自立した生活が送れるよう努めている。また、日めくりカレンダーや食事のメニュー表を掲示し、「わかること」を増やせるようにしている。		